

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 11月25日

[評価実施概要]

事業所番号	1270902818
法人名	株式会社エンジョイ
事業所名	エンジョイ松が丘そよ風
所在地	〒274-0064 千葉県船橋市松が丘5-32-1 (電 話) 047-456-3777

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4 千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成20年11月25日	評価確定日	平成21年1月20日

[情報提供票より] (20年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 12月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 16 人, 非常勤 1人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000 円	その他の経費(月額)	食費45,000+水・光熱費15,000+実費
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (280,000円)	有りの場合 償却の有無	有 (期間:2年 毎月1万 円の償却)
食材料費	朝食 400 円 夕食 600 円 または1日当たり 1,500 円	昼食 500 円 おやつ 円	

(4) 利用者の概要 (11月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	12 名
要介護1	7 名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 84.1 歳	最低 76 歳	最高 97 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	産育会ファミリークリニック 中条医院 共立習志野台病院 若葉クリニック ラビット歯科
---------	--

特定非営利活動法人コミュニティケア研究所

[外部評価で確認されたこの事業所の特徴]

デイサービス併設の平屋建て2ユニットのグループホームで、デイサービス利用から入所に至った入居者もあり、顔見知りの訪問が時々ある。自治会の一員として夏祭り、清掃、ラジオ体操に参加している。各行事に参加することで地域交流も深まり、入居者に対して地域の人から声をかけてくれることが多くなった。理念として掲げている「笑顔で毎日を過ごす」を実践しており、入居者の顔がとても穏やかである。職員との良好な関係が質の高いサービスに繋がっていると思われる。医療面では各ユニット毎の往診医が24時間体制をとっている。職員も定着してきたので今後、更なるサービスの質の向上に向けての取り組みに期待したい。

[重点項目への取り組み状況]

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 玄関の鍵は家族から要望があり、運営推進会議で協議の結果、施錠することになった。研修会参加及び計画に関しては、ようやく人材確保に至ったばかりでもあり、これから進めていく予定である。社会福祉主事の通信教育には3人が取り組んでいる。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員全員に自己評価用紙を配布し意見を聞いた。自己評価の内容については、全員が把握しているわけではないが、申し送りノートに改善点を記載し、全員の周知に向け努力をしている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 3ヶ月に1回運営推進会議を開催しており、地域包括支援センター、自治会会長、家族会、職員が参加している。入居者の近況報告、行事、外部評価の結果報告を行い、改善点について話し合っている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 苦情相談窓口は重要事項説明書に記載されている。また、家族の面会時に話しをする機会を設け入居者の近況報告、ホームの行事、金銭管理等の報告を行っている。毎月グループホーム便りの発行し、こちらでも入居者の近況や金銭報告を行っている。家族会も3カ月に1度定期的に開かれ、意見や苦情の聞き取りをしその後で開かれる運営推進会議で話し合われ運営に反映されている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内の自治会の一員になり、夏祭り、清掃活動など地域の行事に参加し、地域交流を行っている。特にラジオ体操へ参加してから声をかけてくれる地域の方が増えてきている。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	スタッフ間の話し合い、会議等を通じて事業所としての理念を作りあげ明示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各ユニット毎の理念を掲げており、職員間にて共有化がされている。その人らしく暮らし続けることを念頭におき、ケアサービスに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の一員として地域町内会の行事へ参加し、交流を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価の意義を十分理解し、改善策に取り組んでいる。職員に自己評価票を配布し、全員で取り組む姿勢は伺えるが、職員一人ひとりに評価の意義が浸透するまでは至っていない。改善策についても申し送りノートに記載して明示しているが、知らない職員もいる。	○	職員の交代が多く、評価について周知が不十分であったが、職員の定着も見られるようになったため、今後は全職員が評価の意義やねらいを理解し、活用すべく改善に取り組むことが期待される。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回運営推進会議を開催している。同日に開かれる家族会で話し合われた問題点についても推進会議の中で意見を聞き、改善に向けての取り組みを行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	千葉県グループホーム連絡会で、高齢福祉課の職員と話す機会を設けている。また、運営推進会議に地域包括支援センターからも参加があり、会議以外のときにも相談できる関係にある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月グループホーム便りを発行し、家族に近況報告、行事、金銭管理について報告している。また、職員は家族の面会時にできるだけ話す機会を設けている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を重要事項説明書に明記している。3か月に一度開かれる家族会の開催時に意見等を聞き運営に反映させている。近隣の家族はよく訪れるので話し合い情報交換をこまめにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動がこれまで多かったがようやく落ち着いた。また、職員異動時には、引継ぎする時には時間を費やし、入居者が不安にならないように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人グループ内研修や千葉県グループホーム連絡会には管理者が参加しているが、現場職員の参加がない。また、職員の段階に応じた研修計画もないが、社会福祉主事通信教育の推薦枠があり、現在勉強中の職員が3名いる。	○	研修計画については年間計画や職員の段階に応じた研修が望まれる。また、時間帯によっては、研修参加が難しい職員もいる。より多くの職員が参加できるよう、時間帯についての工夫も必要と思われる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は千葉県グループホーム連絡会に参加したり、そよ風主催の月1回の研修に参加している。また職員もデイサービス職員と交流を持ったり、そよ風グループの研修に参加している。	○	管理者のみならず職員も法人内の交流にとどまらず、地域の他の同業者との意見交換やネットワークづくりが必要と思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者には数日間体験入居をもらい、ホームでの生活に馴染めるようにしている。初回訪問時に部屋の写真を撮り、居室が自宅と似た雰囲気になるようにして、違和感なくホームに移れるように工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生経験豊かな入居者と共に、余暇や作業時間を過ごし、生活の知恵を教わり、共に暮らしている。食事時に、入居者から亀の飼育やイチゴの苗の育て方を職員が教わったりして日常生活の中でお互いに支え合う関係を築いている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室担当が中心となって、入居者の日常生活における言動や、家族の面会時に思いや意見も聞き入れ、本人本意の意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月1回ケアマネジャーと全職員が参加するケース会議が開かれており、そこで介護計画作成担当者や居室担当者が予め作成した介護計画を提案し、協議したうえで完成となる。介護計画書は、よく整理されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリング実践記録によって毎月1回、介護計画の実施状況と課題の達成状況を把握している。状態変化の時は家族を交えその都度、その他は3ヶ月に1回、計画的に介護計画の見直しをしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	カラオケの好きな入居者がデイサービスのカラオケを楽しめるよう支援したり、できる限り、柔軟に対応する努力している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ユニットごとにかかりつけの協力医がいる。定期的な往診があり、協力医は24時間体制での対応も可能である。入居者、家族の希望によっては協力医とも話し合い、主治医の変更も実施している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	原則としてターミナルケア(終末期ケア)の体制は行われていない。家族には、常時医療が必要になった時までのケアであることを入居時に口頭と契約書で説明している。本人・家族・関係スタッフを交えて医療が必要になるまでのケアについては出来る限り対応している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者等は、普段から職員の入居者への対応や言葉使いを指導し、プライバシーや尊厳の確保に配慮している。個人情報は事務所で管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スケジュールの大枠は決まっているが、入居者一人ひとりのペースを大切にしており、希望によっては食事の時間をずらすなど、職員は臨機応変な対応をしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は入居者と職員と一緒に準備から後片付けまでを行っている。出来ることは本人に任せており、食事の早い人、ゆっくりな人、介助を要する人それぞれのペースを尊重している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に1日おきの入浴となっているが、一人ひとりの希望を尊重し、臨機応変な対応を行っている。順番についても熱いお湯が好きな方、ぬるいのが好きな方など入居者一人ひとりのニーズを把握し支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者は洗濯物を干す・畳む、掃除、亀の世話、カレンダー作り、雑巾作りなどホーム内での生活に広く関わっており、職員はそれらを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員と一緒に日常的に周辺の散歩を行っている。本人の希望に合わせて、近所のコンビニへおやつを買いに行ったり、ドライブで市内のスーパーやデパートなどにも出かけ、買い物を楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯の意識や家族からの要望もあり、運営推進会議で協議の結果、玄関は常時施錠されている。入居者が外出しそうな気配があれば、職員が察知しその都度対応している。	○	運営推進会議で決まった結果ではあるが、他の事業所の取り組みを参考にするなどして、安全を確保しながら鍵をかけない努力工夫が望まれる。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回防災訓練を実施している。緊急時の対処方法はマニュアル化されているが、職員への周知までには至っていない。運営推進会議の場で、各機関に緊急時の協力体制を要請しており、避難時に利用者がつけるシールを独自に作成するなどの試みも見られる。	○	緊急避難場所や非常口、消火器の設置場所などが口頭による周知なので、誰が見ても分かるよう、緊急時の対処マニュアルに明記されること、全職員が緊急時の対処マニュアルを習熟しておくことが望まれる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	喫食の状況はこまかく作業日誌に記入され、かかわる職員が情報を共有できるように、引き継ぎもしっかり行われている。作業日誌を基に管理栄養士による指導助言も行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は陽の光を取りこんでおり、全体的に明るく清潔感がある。ホーム内には入居者の作品が多数展示してある。中庭には自分たちの畑もあり、季節を感じることもできる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者は馴染みの家具や好みのカーペット、カーテンなどを居室に持ちこみ、入居前まで本人が自宅で生活していた部屋の写真などを参考にし、居心地よく過ごせる雰囲気作りをしている。		